

## ⑤洪水による家屋の浸水被害を減らし、県民の生命財産が守られます

近年発生した台風や集中豪雨などによる洪水で家屋の浸水被害の発生が想定される区域は、約 90k m<sup>2</sup>あります。

今後 10 年間で県が管理する河川において、河川の氾濫を防ぐため、川幅の拡幅や洪水を溜める調節池などの河川改修を行い、浸水被害の発生が想定される区域を約 53k m<sup>2</sup>減らします。また、その後の 10 年間で、残りの約 37k m<sup>2</sup>をなくします。

### ○浸水箇所の対策例（休泊川）

#### 出水浸水状況

##### 氾濫が想定される浸水状況図



##### 出水状況（整備前）



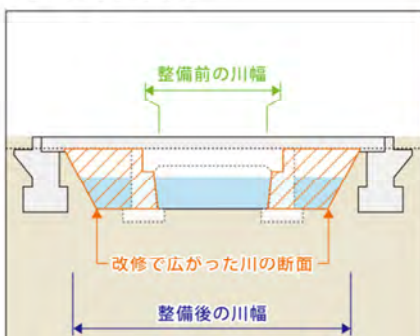
集中豪雨による川の出水状況 (H10.8)

##### 家屋浸水及び道路冠水の状況



集中豪雨などによる氾濫状況 (H10.8)

#### 河川改修状況



橋梁架け替え前後の河川横断面

##### 整備前



整備前は、上下流の河川断面に比べて、橋梁部が狭くなっていた。

##### 整備後



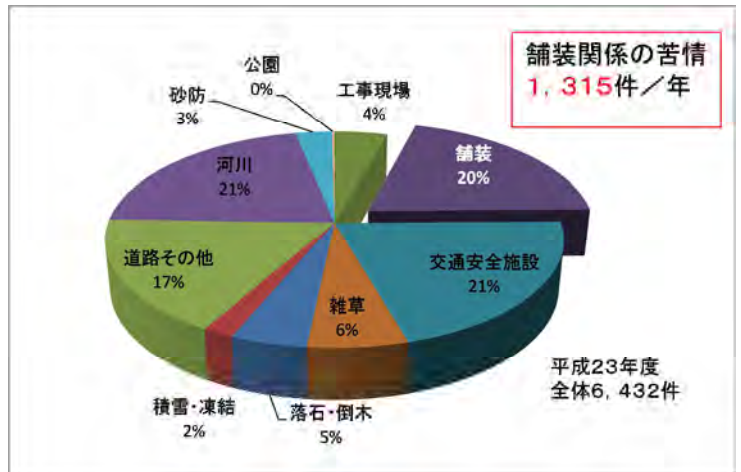
橋梁部の川幅を拡幅する改修を実施した。

図表-29 浸水箇所の対策例（太田市、大泉町）

## ⑥道路の騒音や振動が減少します

群馬県が管理している舗装道路延長約3,100kmのうち路面の悪い道路は20%以上存在しています。

今後、舗装の長寿命化計画に基づき、コスト縮減及び予算の平準化を図りながら一定の水準で管理していくことで、騒音や振動などで困っている箇所の減少に努めます。



図表-30 苦情件数の割合

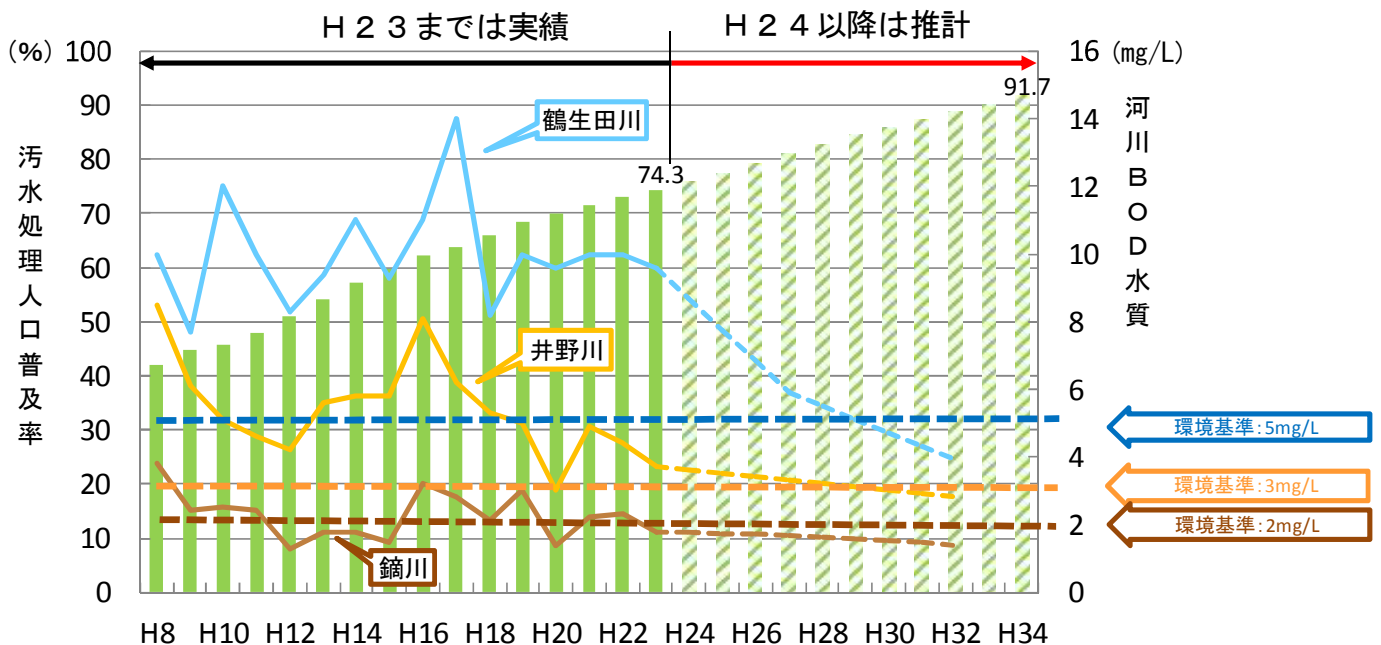
## ⑦水源県ぐんまの河川の水質が改善します

首都圏の水道用水、農業用水の水源である利根川の最上流県として、利根川本川はもちろんのこと、流入する河川の水質について定められた環境基準を守る必要があります。

このため、生活雑排水の汚水処理施設対策や工場、畜舎の排水対策などにより、県民にとって最良の水環境を取り戻し、河川にヤマメやアユが生息できる場所がたくさんある「清流県」を目指します。

類型	BOD	水生生物の生息状況
AA	1mg/L以下	ヤマメ、イワナ等が生息
A	2mg/L以下	
B	3mg/L以下	サケ科魚類およびアユ等が生息
C	5mg/L以下	コイ、フナ等が生息
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	-

図表-31 BODと水生生物の生息状況



図表-32 汚水処理人口普及率と河川水質の推移と見込み

※ 汚水処理施設には、下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽などの処理手法があります。

※ BODとは、生物化学的酸素要求量と呼ばれる水質指標の一つであり、水中の有機物の量を、その酸化・分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものです。一般に、BODの値が大きいほど、その水質が悪いと言えます。